

知識集約型社会を支える人材育成事業 令和3年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学等名	東京都市大学	整理番号	5
メニュー	メニューⅠ 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	ゲームチェンジ時代の製造業を切り拓く「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム		

1. 進捗状況の概要

- ・東京都市大学では、学長以下教職員が一体となり、本事業計画の推進に努力されている姿勢が見られ、本事業計画の中核を成す新教育課程の整備及び実施状況から、極めて優れた学修成果を生み出していくことが期待できる。
- ・「現地視察における要望事項」については真摯な対応がなされ、また、審査結果に付した留意事項で対応等を求めた事項についても継続して検討を重ねていることが確認できた。
- ・整備を進めている標準ルーブリックに関しては、新たに「都市大力」を定義し、ルーブリックの素案を検討していることを確認した。また、「ひらめきづくり（1）」「ことづくり（1）」で使用しているルーブリックを確認した。ただし、今後の整理が必要な点も見受けられるので、「2. 課題・意見（改善を要する点、指導・助言内容）」を参照のこと。
- ・コーディネーター及び学修アドバイザーの令和3年度前期の相談状況及び出校状況、授業の様子について確認し、極めて優れた指導を行っていることを理解した。さらに、「ひらめきづくり（1）」「ことづくり（1）」について、科目内容、実施方法、授業計画、授業評価、ルーブリック、学生の発表資料、学生の感想等を確認した。学生との意見交換では、詳しく授業の様子を聞くことができたことに加え、学生が「新たな視点」、「方法論」、「発想法」、「一つではない解決策を考える力」などを学んだ旨が確認できた。授業内容のみならず、教員・学生双方がインタラクティブに活動し、deep active learningに至っていることが認められた。
- ・大学が実施したフォローアップ調査に基づいて第1クォーターの結果について確認した。また、本事業計画への理解度を高めるFD・SDの出席状況や、評価計画に盛り込まれていた中核科目の履修状況、GPAについても確認した。

2. 課題・意見（改善を要する点、指導・助言内容）

- ・全学ディプロマ・ポリシーを評価する標準ルーブリックについては申請時の計画調書で言及され、既に全学科で卒業研究と必修科目で実施されている。本事業計画についても従来の標準ルーブリックを適用して全学ディプロマ・ポリシーの達成度評価に用いることは理解できる。しかし、「全学ディプロマ・ポリシー」、「都市大力」及び本事業計画のプログラムで育成する「5つの力」の関係性が不明確であるため、それらを整理した上で、学生、教職員及びステークホルダーに説明する必要がある。
- ・上記「全学ディプロマ・ポリシー」、「都市大力」及び「5つの力」のそれぞれの項目が個々の授業の到達目標とどのように関わっているのか、カリキュラム・マップを作成し、全体像を明確にしておく必要がある。
- ・本事業計画の優れた成果を全学の教職員や学生、保護者、ひいては全国に波及させるためには、さらなる広報活動や発信が求められる。特に本事業計画の全学展開には十分な教職員の理解が必要であり、必要な教育手法の共有が不可欠となることから、FD研修を含めた発信と共有の一層の充実が望まれる。